

平成25年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮西高等学校）

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育成して、自己実現を図る。
重点目標	1 生徒が学力の向上と定着を実感できる学習指導の充実 2 心身ともに健康でけじめある生活を送れる生徒の育成 3 生徒自ら進路を選択しその実現に向けて努力する姿勢の確立 4 開かれた学校づくりの推進(情報発信の充実と活用)

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価				年度評価（2月6日現在）			
年度目標				年度評価			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	○生徒の学習意欲の向上と学習習慣の確立のためには、より一層の工夫が必要である。学習環境の整備、授業の改善、授業時間の確保に努める。課題学習の充実などから予習復習の習慣を身に付けさせるとともに、家庭学習の定着を図る必要がある。	学力の向上を目指したより良い授業展開のための取組 生徒の意識改革を呼び起こすような学習指導の取組	○授業評価や授業研究を通して授業の工夫や改善を行う。 ○生徒の学習への興味関心を高め、積極的に授業に参加させるための工夫。 ○補習等を通して個別指導の充実を図る。 ○週末課題など各教科からの課題の提出と、その確認テストを実施することにより、家庭学習の習慣化を目指す。 ○校内の整理整頓・落ち着いた学習環境づくり。 ○教科主任会を通じて、教科横断的な全体指導像の共有。 ○授業時間の確保、チャイム始業。	○授業に積極的に取り組む生徒は増加したか。 ○校内試験、校外模試の成績優良者は増加したか。 ○生徒のニーズに合わせた補習講座が開設されているか。 ○家庭学習の定着は図れたか。 ○校内美化が保たれているか。 ○教科間の指導体制に共通の方向性が示されたか。	○外部機関を利用した学力到達度調査で生徒の学習理解度を調査し、学習指導に役立てた。 ○さいたま市立高等学校合同授業研究会において国・数・英の研究授業を複数クラス展開した。授業の工夫や改善の取組を発表し、参加者から高い評価を受けた。 ○家庭学習の定着を図る国・数・英の週末課題・単元課題の実施が常態化してきた。(1・2年)。 ○新たにグローバルスタディールームを開設し、生徒の自学自習の拠点が整い学習環境がさらに充実した。 ○1年から3年まで各段階に応じた補習講座を開設し、熱心な進路補習を行った。 ○新教育課程実施にともない、生徒へのガイダンス資料を充実させた。特に新2年生に対しては文理選択においてきめ細やかな指導を行った。	B	○年2回の学力調査の活用法を学校全体で共有するするとともに、有効な学習指導法を見出していく。 ○帰宅後の時間を工夫した、家庭学習時間の確保を促す。 ○グローバルスタディールームのさらなる整備・活用を進める。 ○新教育課程の運用面の問題点の洗い出しと、対処方法の検討をさらに進める。
2	○日々の学校生活や学校行事を通して自分を見つめ、他者を知る機会とする。そして人を思い遣る気持ちや他を尊重する態度を身に付けさせる。 ○明るく元気な生徒が多い反面、ややだらしない部分があり、その雰囲気や能力の伸長を妨げている感がある。けじめのある生活を送れるよう指導が必要である。 ○登下校時の交通安全、マナー指導や事故防止に努め、傘さし運転をなくす。	豊かな人間性の育成と基本的生活習慣の確立を目指す生徒指導の取組	○基本的な生活習慣の確立。 ・時間や規則を守らせる。 ・服装・頭髪指導、遅刻指導の充実。 ・登下校時のマナーアップ、点検。 ・三橋（3）交差点指導等の充実。 ○豊かな人間関係の育成。 ・学校行事への積極的な参加。 ・部活動の活性化。 ・国際教育の推進。 ・社会常識を育む講話の実施 ○心身ともに健康な生徒育成。 ・教育相談(スクールカウンセラーによる)の充実。 ・個別指導の充実、面談等の実施。 ・家庭、関係機関等との連携を図る。 ○特別支援教育の推進。	○服装、頭髪指導の効果は上がったか。 ○休み時間と授業の区別、部活動と家庭学習の両立はできているか。 ○遅刻数は減少したか。 ○交通安全、マナーの意識は向上したか ○傘さし運転はなくなったか。 ○部活動や学校行事の活性化は図れたか。 ○講話・講演を計画的に実施できたか。 ○いじめや不登校などの情報を共有し、指導に活かされたか。 ○国際教育を推進することができたか。	○頭髪については、各学年で継続的に指導を行い、一定の成果が出ている。 ○遅刻指導は各学年ごとに実施しているが、減少したかは3月末の統計を待つ。 ○交通安全については、10月に伝達講習会を全校で実施した。 ○今年度より傘さし運転をなくす指導をおこない、多くの生徒がかっぱを着用するようになった。 ○学校行事に生徒は熱心に取り組む、生徒の手で企画・実行され、伝統として引き継がれている。 ○ブログやツイッターに写真や実名を載せるなどネットの危険性の認識が甘い。3月に講演会を行い更なる注意を喚起する。 ○運動部・文化部とも熱心に活動しており、全国大会・関東大会に出場を果たすなど顕著な成績を残した。 ○いじめについてのアンケートを実施したり、生徒との面談や特別支援教育の委員会を多く開催し、情報を共有したり、生徒の指導に役立てることができた。	B	○基本的な生活習慣の確立と態度を粘り強く育成していく必要がある。 ○頭髪・服装をきちんとさせ、けじめある行動がとれる生徒を育成する。 ○数分の遅刻者を減らす指導が必要である。 ○マナーアップのためには、定期的に校外の道路で立哨指導が必要である。 ○傘さし運転をなくすため指導を継続し、下校時のかっぱを着用するように指導したい。 ○いじめの実態を把握するとともに、生徒ひとりひとりに目を向け、様子の変化を観察したり情報収集をすることによって、いじめや自殺予防をする。 ○講話や講演を計画的に実施する。
3	○入学時より多くの生徒が進学を目指し、計画的に取り組んでいる。しかし一部に具体的に取組むことが遅れ、実力を発揮できないままの生徒がいる。そのため早い段階からのきめ細かい進路指導を繰り返し行う必要がある。	生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の取組	○進路指導に伴う個人面談の充実。 ○ガイダンス機能の充実。 ○卒業生からの進路アドバイス。 ○進路の手引きや各種進路資料を整備し、進路情報の提供を図る。 ○職員の大学・短大説明会への参加。 ○実力テストの実施を通して進路指導の充実。 ○土曜進学セミナーを通しての進学指導。 ○生徒の大学・短大見学の推進。 ○新入生対象、学習法ガイダンスを開催。 ○センター試験の促進とセンター試験対策の実施。	○面談等を通し生徒の進路意識の向上を図れたか。 ○進路情報の提供が適切に行われているか。 ○学年と進路指導部との連携が十分図れたか。 ○土曜進学セミナーへの参加で生徒の受験意識が高まったか。 ○生徒の進路希望に添った補習講座が平日行われているか。 ○進路希望を実現させた生徒は増加したか。	○生徒への個人面談を年3回以上実施し、個別の進路相談を恒常的に行うことができた。 ○休業日を利用した原則全員受験による模擬試験や外部講師を招いた土曜進学セミナーやセンター試験対策ゼミを積極的に実施し、生徒の進路選択意識を高めた。 ○オンライン予備校を導入し、生徒の学習活動や受験対策が充実した。 ○学年との連携のもと1年次のキャリア教育、2年次のオープンキャンパス参加や卒業生との懇談会など進路志望の早期決定指導、3年次の分野別ガイダンス等を行った。 ○一般入試受験者が増加し、AO/推薦等で進路決定した生徒にもセンター試験の受験を指導した。	A	○生徒の進路希望を実現させる進路指導を継続していく。 ○外部模擬試験の有効利用(事前・事後指導の充実)を進める。 ○土曜進学セミナー参加者の増加をめざす。 ○AO入試や推薦入試に適切に対応するための教職員間の情報の共有化を図る。 ○センター受験も含め、進路決定者に対する指導を充実させていく。
4	○PTA、地域等の連携を密にする取組、HPの更新やメール送信による連絡など順調に進歩している。さらに今年度からは、情報通信機器を用いた学校からの情報提供・収集システムの構築を進める。	開かれた学校づくりの推進、情報発信の充実と活用	○公開授業の推進、充実。(保護者、中学校との連携を密にする) ○PTA活動の充実。支援態勢づくりを図る。 ○HP等各種方法による中学校向け情報の提供。 ○保護者への新メール配信システムによる、情報の提供・収集。 ○双方向のやり取りができるポータルサイトの設置。	○保護者への情報提供の充実を図れたか。 ○中学生、その保護者の学校説明会、学校見学会への参加数は増加したか。 ○保護者が参加可能な学校行事への保護者の参加数は増加したか。 ○保護者や地域からの要望を活かす指導は行われたか。	○新メール配信システムにより保護者に対してこれまで以上にきめ細やかな情報提供ができた。 ○欠席等の連絡を電子化することによって、保護者、学校とも事務処理の利便性が上がった。 ○学校説明会の申し込み受け付けを電子化することにより、中学生およびその保護者が申し込みやすい環境を整えた。 ○HPを刷新し、よりわかりやすい情報発信を心がけた。	A	○欠席等の連絡については電子化によるものだけでなく、クラス担任等によるきめ細やかな対応を心がける必要がある。 ○学校説明会の申し込み者数が増加した。このことに対する分析を正確にし、生徒募集に役立てる必要性がある。 ○PTA活動の更なる組織間連携による効率化のものでの充実をめざす。

学校関係者評価
実施日 平成26年2月21日 学校関係者からの意見・要望・評価等
・受験サプリの活用など新しい取組が見られ、現状の課題を解決しようという努力がみられる。この取組の成果は、次年度以降もその成果を検証していく必要がある。 ・生徒の学習意欲や習慣の確立のための工夫や取組に評価出来る点が多くある。その結果が数値的な評価としてであると解りやすい。 ・生徒の授業評価を実施して戴きたい。生徒自らが学習の取組を見つめ直す機会となり、また評価力をつけることに繋がる。授業改善にも有効である。 ・学習意欲の向上、進路実現への熱意の増幅する取組をより厚くして戴きたい。例えば外部講師を招いての講演・講習会の実施回数を増やす等である。
・生徒に対してきめ細かい指導が行われている。 ・ネットの危険性に関する講演会等が次年度以降も計画されているが、理解を得るためにワークショップ形式の啓発活動も検討されてはどうか。 ・保護者は子の「学校が楽しい」という声に意識が集中し生活態度がだらしないけじめがない等負の部分十分理解していないのでは。頭髪服装検査、交通安全マナー等の問題は、学校とPTAが協力して保護者への啓蒙活動の実施を検討してはどうか。 ・校内での学習や部活動など仲間同士の切磋琢磨も大切であるが、外部の人間との接触で自らを高めていく「他流試合」も生徒の人間形成には大きな効果をもたらすのではないかと。 ・インター外の国際交流に対する意義は高く積極的にあり奉仕活動にも熱心なことから、ローリーとしてもグローバルな人づくりに協力していきたい。
・進路指導の内容に工夫と前進があり評価出来る。 ・進路指導の評価というものは、進路実現結果を含めた評価とし、前年度までの結果を数値化し、指標評価の可視化が必要である。 ・一般入試受験者の増加は、ここ数年の地道な進路指導の成果と思われる。AOや推薦等で進路決定した生徒にもセンター試験の受験を指導しているとのことであるがセンター試験を受験するということが、大学入学後のスムーズな学びを保障するものであることを、生徒及び保護者に充分理解してもらうような工夫が求められる。
・HPの刷新や情報発信がメール送信システムによりしっかり実施されている点が評価出来る。アドレスを変えた保護者に情報が届いていないケースが見受けられ、改善する余地がある。 ・公開授業のあり方、方法について保護者の意見を取り入れ実施の仕方を再検討して戴きたい。 ・「電光石火」や西高新聞のような保護者に届きにくい配布物もHP上で閲覧できる工夫がされるとより家庭との連携が図れると思われる。